

輸液用電解質液(維持液)

処方箋医薬品^{注)}

日本標準商品分類番号
873319

貯法：室温保存
使用期限：外箱、容器に表示

イー エル

EL-3号輸液 EL-Solution No. 3

承認番号	22000AMX00056
薬価収載	2008年6月
販売開始	1990年7月
再評価結果	1978年3月

注)注意－医師等の処方箋により使用する
こと

[禁忌](次の患者には投与しないこと)

- (1) 乳酸血症の患者
[乳酸を含む本剤により乳酸血症を悪化させるおそれがある。]
- (2) 高カリウム血症、乏尿、アジソン病、重症熱傷、高窒素血症のある患者
[腎からのカリウム排泄障害のため症状を悪化させるおそれがある。]
- (3) 高リン血症、低カルシウム血症、副甲状腺機能低下症の患者
[本剤の電解質組成により高リン血症、低カルシウム血症を悪化させるおそれがある。]

[組成・性状]

1. 組成

本剤は下記の成分を含有する。

成分	1袋(500mL)中
塩化ナトリウム	0.585g
塩化カリウム	0.745g
リン酸二カリウム	0.580g
リン酸二水素カリウム	0.110g
L-乳酸ナトリウム	1.120g
ブドウ糖	25.000g

添加物	1袋(500mL)中
氷酢酸(pH調節剤)	適量

熱量：100kcal

電解質濃度(mEq/L)

Na ⁺	K ⁺	Cl ⁻	L-Lactate ⁻	Phosphate
40	35	40	20	8(mmol/L)

2. 性状

本剤は無色澄明の液である。

pH	浸透圧比*
4.0~6.0	約2

*生理食塩液に対する比

剤形：水性注射剤

※3. 製剤的事項

本剤に使用のプラスチックバッグの規格は次のとおりである。

	予備容量
500mLプラスチックバッグ	約175mL

(落差45cmで混注したときの混注可能量)

[効能・効果]

経口摂取不能又は不十分な場合の水分・電解質の補給・維持、エネルギーの補給

[用法・用量]

通常成人、1回500~1,000mLを点滴静注する。投与速度は、通常成人ブドウ糖として1時間あたり0.5g/kg体重以下とする。なお、年齢、症状、体重により適宜増減する。

[使用上の注意]

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
 - (1) 高カリウム血症を伴わない腎不全のある患者
[ナトリウム負荷によるカリウム排泄の阻害により腎不全症状を悪化させるおそれがある。]
 - (2) 心不全のある患者
[循環血液量の増加により心負荷増大のおそれがある。]
 - (3) 重篤な肝障害のある患者
[乳酸代謝能の低下により高乳酸血症を起こすおそれがある。]
 - (4) 閉塞性尿路疾患により尿量が減少している患者
[水排泄障害により原病の症状を悪化させるおそれがある。]
 - (5) 糖尿病の患者
[高血糖を起こすおそれがある。]
2. 副作用
本剤は、使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明
大量・急速投与	脳浮腫、肺水腫、末梢の浮腫、水中毒、高カリウム血症

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

4. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ投与すること。
[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]
- (2) 授乳中の婦人には投与しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には授乳を避けさせること。
[授乳中の投与に関する安全性は確立していない。]

5. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。(使用経験がない)

6. 適用上の注意

- (1) 投与前
 - 1) 完全に澄明でないものは使用しないこと。
 - 2) 開封後は速やかに使用し、残液は決して使用しないこと。
- (2) 調製時
カルシウムイオンと沈殿を生じるので、カルシウムを含む製剤と配合しないこと。

(3)投与時

本剤を投与する場合は患者の尿量が1日500mL又は1時間あたり20mL以上あることが望ましい。

[臨床成績]^{1,2)}

消化器外科疾患患者に、手術直後よりE L-3号輸液を1,000～2,500mL/日、2～10日間投与することにより、水分出納では術後早朝の尿量の減少は認められず、血清電解質の変動は、いずれもほぼ正常範囲で、血清総蛋白、ヘマトクリットも著明な低下は認められなかった。

[薬効薬理]^{3～6)}

- (1)水分・電解質の異常をきたすことなく体液バランスを維持する。
- (2)代謝性アシドーシスを改善する。
- (3)代謝性アルカローシスを改善する。
- (4)体蛋白の異化やケトーシスを防止する。

※[取扱い上の注意]

- (1)容器表面に水滴や結晶が付着している場合には使用しないこと。
- (2)通気針は不要。
- (3)ゴム栓を保護しているシールがはがれているときは使用しないこと。
- (4)混注する場合、注射針の刺針はゴム栓の周囲にある刺針部(凹部)を使用し、まっすぐ刺し入れること。斜めに刺すと、ゴム栓や排出口内壁の削り片が薬液中に混入したり、容器を刺通し液漏れの原因となることがある。また、同一箇所を繰り返し刺さないこと。
- (5)輸液セットの瓶針はゴム栓の中央部の刺針部(凹部)にまっすぐ刺し入れること。
- (6)容器の目盛りは目安として使用すること。
- (7)本製品は、連結管(U字管)を用いたタンデム方式による投与はできないので、2バッグを同時又は連続して投与する場合は、Y型タイプの輸液セットを使用すること。

[包装]

500mL×20袋(プラスチックバッグ)

[主要文献]

- 1) 岡村治明 他：薬理と治療, 3, 1507, 1975
- 2) 植木重文 他：臨床と研究, 53, 3820, 1976
- 3) Talbot, N. B., et al. : New Engl. J. Med., 252, 856, 1955
- 4) Talbot, N. B., et al. : New Engl. J. Med., 252, 898, 1955
- 5) Talbot, N. B., et al. : Metabolism, 9, 897, 1960
- 6) Smith, H. L., et al. : J. Pediatrics, 58, 1, 1961

[文献請求先]

株式会社 陽進堂 お客様相談室
東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号
☎ 0120-647-734

製造販売元

エイワイファーマ株式会社

東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号

販売元

 **株式会社 陽進堂**
富山県富山市婦中町萩島3697番地8号